

生徒会新聞

第11号

12月10日 ひびきあい集会

先週の水曜日に、ひびきあい集会がありましたね。今回の生徒会新聞では、その時の様子と、全校のみんなが書いた感想を紹介します。

下を見てメモを取るだけでなく、ときどきスライドや吉村さんを見ながら話を聞くことができていました。



集中して話を聞く姿

I think it's
Very good!!!



〈感想のまとめ〉

「助けに行ったのに、助けに行けない」という言葉を聞いて、災害にあったら今の「あたり前」が「あたり前」ではなくなることがわかり、少し怖くなりました。私達1年生は今度、石川県の被災した方にお手紙を書かせてもらうので、今回学んだことを参考にし、被災した人たちに手紙で支えたいです。

(1A 工藤菜暢さん)

今回の講話を通して、支え合うことはとても大切だと感じました。災害時に必要なものの準備や、周りの人との協力がもっとできるようになれば悲しくなる人が減ると思いました。だから、学んだことを家族に話したり、災害が起きた時に対応できるように訓練に真剣に取り組もうと思いました。

(2A 澤井武琉さん)

今日の話を聞いて、自然災害での救助の大変さを知りました。特に、冬の時期の救助は、寒い中での活動になるから、普段の状況とは全く違う状況で人の命を助けることはすごいと思いました。今の僕にできる対策をしていき、なにがあっても命を大切にしていきたいと思いました。

(2B 正村駿太郎さん)

災害によって生活に必要な衣食住がなくなってしまって、当たり前の日々が送れなくなることが怖いと感じました。災害は、いつどのくらいの規模で起こるのかわからないから、今後に向けて、「自助・共助」を行っていきたいと思いました。また、前向きにいろんなことにチャレンジしたり、人間関係を深めていったりしたいと思いました。

(3B 平子穂乃花さん)

今回の講話を通して、自然災害の怖さや、「あたり前」の大切さについて改めて考えることができたと思います。講話を通しての感想の中にもあったように、自分にできることを考えたり、「あたり前」の日々を大切にしたりできるといいですね。